

## 令和6年度 助産師資質向上・確保対策に関する実態調査結果(病院)

### I 概要

- 1 調査目的：産科・産婦人科を標榜する県内の病院における助産師の活動状況や院内助産・助産師外来、保健指導等の実施状況を把握し、事業や施策内容に反映する。
- 2 調査対象：令和6年4月1日時点で産科・産婦人科を標榜する病院（54病院）
- 3 調査時期：令和7年3月12日～令和7年4月11日
- 4 調査方法：メールで調査依頼し、調査様式（Excel ファイル）をメールで回収
- 5 回答数：54病院（回収率100%）
- 6 回答者：看護職（部長、師長等）49病院、事務職5病院

### II 結果

#### 1. 基本情報

##### (1) 産科関連取扱状況について

令和5年度対象病院が55病院であったが、令和6年度は1病院閉院し54病院となった。

	回答数（全数）	分娩取扱有	妊婦健診等	婦人科のみ	産科・産婦人科 両方休止	助産業務有
R6	54（54）	36	4	12	2	44
R5	54（55）	36	6	9	3	46
R4	55（55）	37	8	7	3	43

##### (2) 分娩件数や病棟や病床数について

分娩件数は15,779件と令和5年度16,427件から648件減少、帝王切開件数は4,684件と令和5年度4,825件から141件減少している。令和5年度調査から無痛分娩件数を追加、令和6年度2,418件と前年度より223件増加した。

	分娩件数	帝王切開件数	無痛分娩件数	産科病棟の 産科病床数	混合病棟の 病床数	混合病棟のうち産 科病床(再掲)
R6	15,779	4,684	2,418	391	1,127	506
R5	16,427	4,825	2,195	420	1,023	530
R4	16,300	4,696	-	429	1,012	408

【参考】出生数あたりの帝王切開率 R5：14.3%（出生数32,691件 帝王切開4,684件）  
 ※出生数は兵庫県ホームページより R4：14.4%（出生数33,565件 帝王切開4,825件）  
 R3：12.7%（出生数36,581件 帝王切開4,650件）

#### 2. 貴院の産科・産婦人科の状況について（産休・育休除く）

##### (1) 職員数について

助産師の実人員は、病院全体では1,066人と令和5年度1,069人から3人減少し、産科病棟では773人と令和5年度784人から11人減少している。常勤換算は、病院全体1015.09人、産科病棟752.74人であり、昨年度並となっている。

	医師（産科・産婦人科）		助産師（病院全体）		助産師（再掲：産科病棟）	
	実人員	常勤換算	実人員	常勤換算	実人員	常勤換算
R6	407	308.89	1,066	1015.09	773	752.74
R5	392	298.28	1,069	1005.54	784	731.52
R4	379	296.91	1,059	1009.79	748	728.82

(2) 産科病棟以外の配属実人数

外来(産婦人科)	NICU・GCU	小児科系病棟	一般外来	内科系病棟
88	56	20	23	45
外科系病棟・手術室・ICU	地域連携室・健康管理室	管理部門(看護部)	自由項目(その他)	
21	7	22	23	

【参考】令和6年度 看護職員の確保状況等に関する実態調査結果

○助産師の採用・退職状況

	常勤	非常勤	合計
令和4年4月1日在籍看護職員数	1,010	93	1,103
令和5年3月31日在籍看護職員数	977	99	1,076
総退職者数	85	9	94

○1年未満の助産師の採用・退職状況

	新卒		既卒		合計	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
採用者数	88	1	26	14	114	15
退職者数	5	0	5	1	10	1

【助産師の退職率】

総退職率	8.6%
常勤	8.6%
非常勤	9.4%
1年未満退職率	8.5%
新卒	5.6%
既卒	15.0%

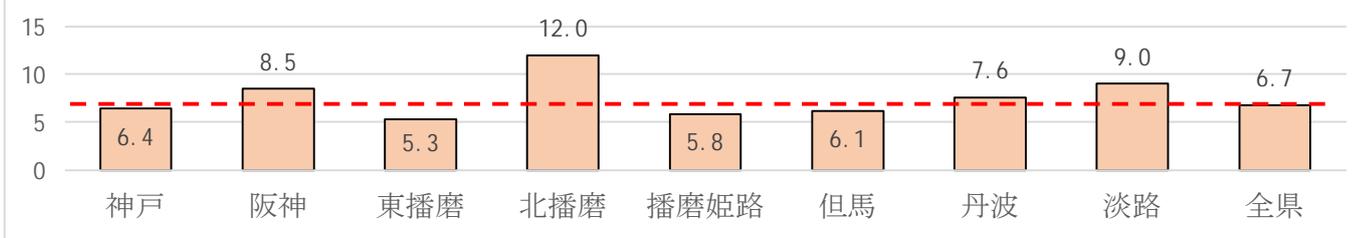
※(産科・産婦人科を標榜する55病院中54病院回答)

3. 医療圏域別の状況について

(1) 二次医療圏域別(救急医療を含む一般的な入院治療が完結されるよう設定された区域)

項目	神戸	阪神	東播磨	北播磨	播磨姫路	但馬	丹波	淡路	全県
分娩数	5,797	3,425	2,553	267	2,569	553	224	411	15,799
産科病床数	391	123	112	63	109	64	20	15	897
助産師実人数	372	290	135	32	149	34	17	37	1,066
助産師数(分娩百対)	6.4	8.5	5.3	12.0	5.8	6.1	7.6	9.0	6.7

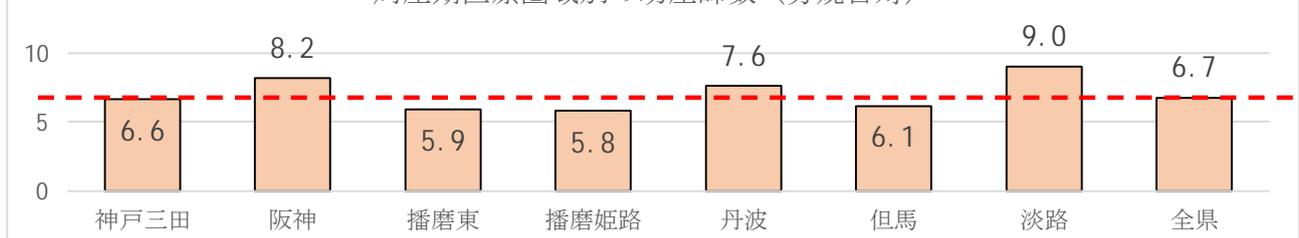
二次医療圏域別の助産師数(分娩百対)



(2) 周産期医療圏域(周産期における母体・胎児・新生児の医療を効率的かつ効果的に提供するために設定された区域)

項目	神戸三田	阪神	播磨東	播磨姫路	丹波	但馬	淡路	全県
分娩数	5,928	3,294	2,820	2,569	224	553	411	15,799
産科病床数	401	113	175	109	20	64	15	897
助産師実人数	393	269	167	149	17	34	37	1,066
助産師数(分娩百対)	6.6	8.2	5.9	5.8	7.6	6.1	9.0	6.7

周産期医療圏域別の助産師数(分娩百対)



以下、助産師業務を行っている病院のみ回答（N=44）

3. 院内助産・助産師外来等について

(1) 院内助産・助産師外来の設置状況

助産師外来の開設数は19病院と令和5年度21病院から2病院減少し、年間件数は2,817件と前年度の4,752件より減少、従事者数は145人であった。

院内助産・助産師外来を両方設置する病院は横ばい、院内助産もR5年とから1病院増加し7病院。年間件数は153件であった。

	助産師外来のみ			院内助産・助産師外来（両方設置）				
	開設数	年間件数	従事者数	開設数	院内助産		助産師外来	
					年間件数	従事者数	年間件数	従事者数
R6	12	1,647	93	7	153	61	1,170	51
R5	15	3,316	87	6	138	47	1,436	55
R4	14	5,044	105	6	157	58	1,538	60
参考 R1	15	7,716	75	6	304	78	2,106	47

(2) 保健指導等の実施状況

	保健指導		未設置
	定期	不定期	
R6	20	13	5
		7	
R5	16	11	10
		5	
R4	17	12	6
		5	

(3) 今後の実施予定

R6	院内助産 (N=37)	助産師外来 (N=25)	保健指導 (N=5)
あり	1	3	1
なし	36	22	4

R5	院内助産 (N=39)	助産師外来 (N=25)	保健指導 (N=11)
あり	0	1	3
なし	39	24	8

4. 助産師の確保・定着状況について

(1) 助産師の確保状況

確保できている	不足している	不足人数
30	14	55

「不足している」と回答した病院の内訳

周産期母子医療センター・地域周産期病院	11
その他	3

(2) 助産実践能力習熟段階レベルⅢ認証制度（CLOCMi p）

	取得者	新規取得者	未更新者
R6	256	10	29
R5	262	33	25
R4	267	21	23

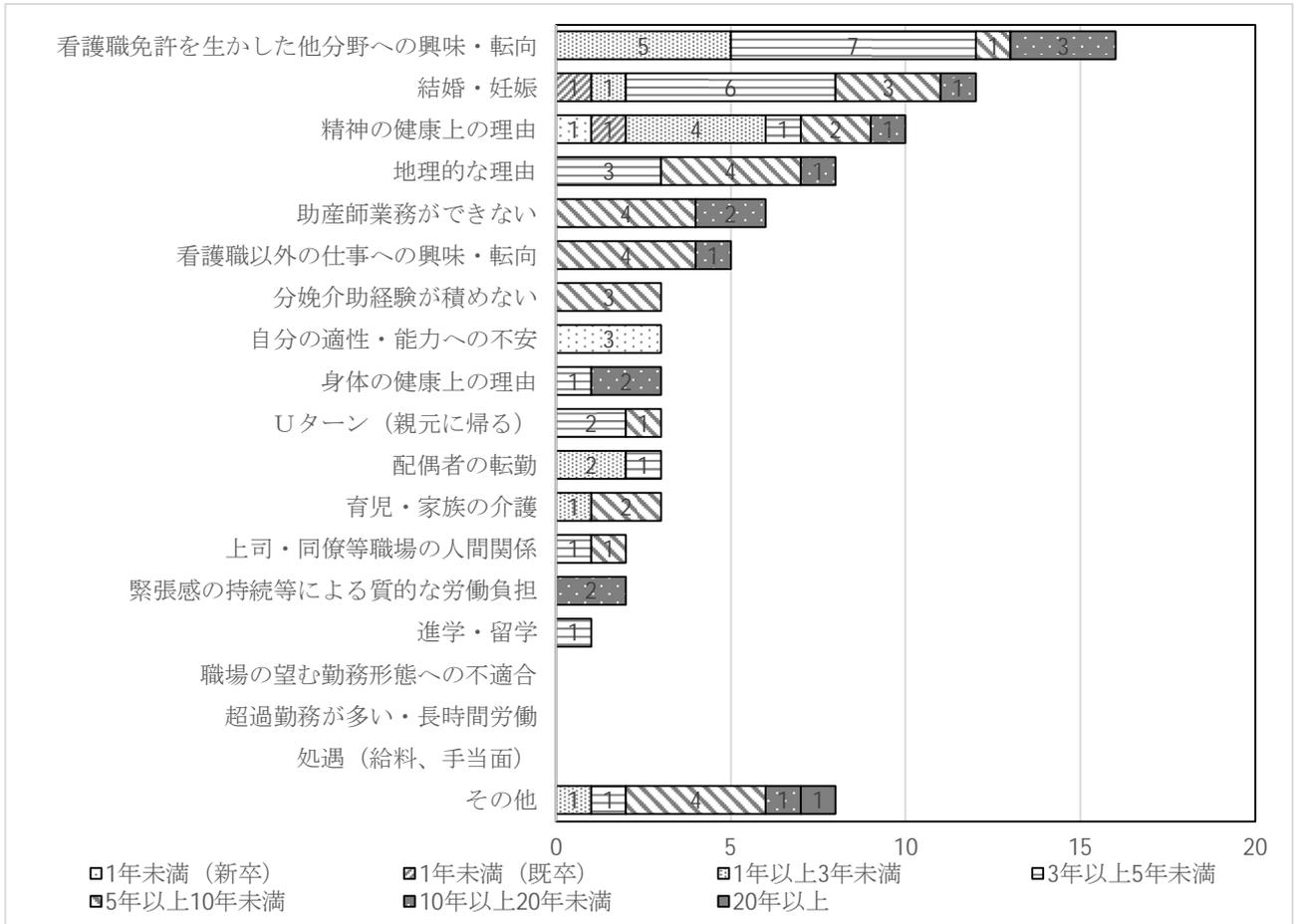
【不足の要因（自由記載内容）】

- ・産休・育休による人員不足（10件）
- ・応募が少ない（7件）
- ・学生・新人の指導人員不足（5件）
- ・助産師業務の拡大（4件）  
（産科以外の業務も助産師が実施するため不足）
- ・分娩件数減少による助産師の転職（3件）
- ・高齢化による夜勤人員の減少
- ・保健指導や産後ケア事業の増加

等

### (3) 経験年齢別の退職理由（複数回答可）

助産師の退職理由として多かった項目は、「看護職免許を生かした他分野への興味・転向(16件)」、「結婚・妊娠(12件)」、「精神の健康上の理由(10件)」、「地理的な理由(8件)」となっている。1年未満の退職理由は、新卒では、「自分の適性・能力への不安(3件)」、「精神の健康上の理由(1件)」等、既卒では、「精神の健康上の理由(1件)」、「結婚・妊娠(1件)」であった。



## 5. 助産師の活躍促進について

### (1) 人材育成の取り組みについて(3項目まで選択可)

項目	回答数
助産に関する研修参加	32
助産師クリニカルラダーを活用した人材育成	23
助産領域以外の研修参加	22
合併症やハイリスク妊婦への対応に関する研修企画や参加	20
産後ケア実務助産師研修への参加	7
NICU、GCU等へのローテーション	6
産科がある系列病院への異動や出向、研修	5
正常分娩介助経験のため出向	2
その他	8

#### 【その他の内容】

- ・乳房ケア・メンタルヘルスに関する研究発表や研修会への参加
- ・院外研修費等の参加費負担
- ・助産師外来、産後ケアを開設し、指導ケアの実線力向上

等

(2) 産後ケアの実施について

産後ケアは30病院で実施し、宿泊型(28病院)、デイサービス型(19病院)、アウトリーチ型(4病院)、産婦健康診査(38病院)を実施している。今後実施予定がある病院は4病院あり、宿泊型(2病院)、デイサービス型(3病院)、産婦健康診査(1病院)を予定している。

① 実施状況

実施している	今後予定がある	実施予定はない
30	4	10

② 実施事業内容(N=26、複数回答可)

宿泊型	デイサービス型	アウトリーチ型	産婦健康診査
28	19	4	38

③ 今後予定する事業内容(N=7、複数回答可)

宿泊型	デイサービス型	アウトリーチ型	産婦健康診査
2	3	0	1

(3) 助産師の出前授業について

① 実施状況

実施している	今後予定がある	実施予定はない
23	1	20

対象	回答数
小学生	10
中学生	11
高校生	5
大学生	3
看護学生	2
その他	3

対象	回答数
命の授業	11
看護職の仕事について	11
性教育	5
第2次性徴・思春期教育	5
看護学の授業について	3
その他	9

6. 自由記載項目

54病院のうち15病院が記載した意見内容を分類したところ、「現状4項目」「課題2項目」「助産師の活躍推進に関すること4項目」「助産師の資質向上に関すること3項目」「地域における助産師の状況3項目」の計16項目のカテゴリーに分けまとめた。

(1) 現状

※複数記載があった内容は、( )内に件数を記載

カテゴリー	サブカテゴリー
病院経営に関すること	産婦人科混合病棟でも病院経営の課題から他科患者を受けている
	病院経営の制約で助産師が本来業務に専念できない
	病院経営の考え方と産科病棟の考え方が合わない(2)
他科患者の受け入れに関すること	分娩件数の減少で空床に他科患者の受け入れが増加し業務が煩雑化
	産科と婦人科・他科患者が分けられ、母子のケアに専念できない
	ハイリスク妊婦が増加傾向にあり母子のケアに専念できない
分娩数に関すること	病院施設では分娩件数が減少傾向にある
助産師数に関すること	分娩に必要な助産師が確保されない

## (2) 課題

カテゴリー	サブカテゴリー
助産師について	スキルが伴っていない助産師が増加している
分娩について	分娩件数減少に伴い、病院に分娩が集約されている
	分娩件数の確保が必要

## (3) 助産師の活躍推進に関すること

カテゴリー	サブカテゴリー
産後ケアに関すること	産後ケアの需要が多いが、分娩増加により受け入れができない
	混合病棟化が進み産後ケアが安全に実施できない
活躍推進	やりがいを感じられるようクリニック・障害学習支援が必要
	名札に『助産師』と提示し誇りと自信を持って働ける職場が必要
活躍推進の取組	経験年数のある助産師は対外活動を通じモチベーション向上している
活躍推進の課題	分娩が保険適用になると地域助産師の能力が最大限活かさない

## (4) 助産師の資質向上に関すること

カテゴリー	サブカテゴリー
資質向上のために求められていること	外国人妊産婦が増加しており、質向上のため研修が必要
	複雑化する妊産婦への支援のため継続学習・実践の場が必要
	助産師がスキルアップできる環境が必要
	地域と病院が連携し助産師教育を行う必要がある(2)
資質向上の現状	母乳育児推進や子育て支援などが収益につながらず質の向上や助産師のスキルアップには直結しない
資質向上の取組	県の周産期事例検討会への研究発表
	県のメンタルヘルス学会への参加
	勤務施設内外でのプレコンセプションケアにおける助産師の活用
	母子育児シンポジウムの研究発表と参加

## (5) 地域における助産師の状況

カテゴリー	サブカテゴリー
地域での取り組み	児童虐待防止におけるCPTチームや地域との連携
地域で必要とされる取組	分娩時に人員を確保するために地域で働いている助産師が担当する患者を決め、病院へ同行し保健指導や分娩に携わる制度が必要
	妊産婦へのケア提供を充実するには地域の助産師が病院の妊婦健診や分娩に携わることが重要
	地域助産師に対して、保健指導や分娩に携わった時に補助金が降りるような制度が必要
	助産師確保・資質向上には病院や他施設が互い連携しやすくなるシステム構築や研修の企画が必要
	地域の保健センターと連携し、産後ケアを希望する方がスムーズに利用できる取り組みが必要
地域連携の現状	地域で活動している助産師の活動内容、役割について理解が薄い
	地域医療連携の現状・実態を知り、地域との関係性を深めたい